



四季便り

The Garden of Medicinal Plants, Kinki University



イチョウ

学名	: <i>Ginkgo biloba</i>
生薬名	: 白果(はくか)、銀杏(ぎんきょう)
薬用部位	: 種子
薬効	: 鎮咳、去痰



学内や御堂筋のイチョウ並木が美しい黄金色へと変わり、秋の風情を演出しています。

イチョウ類は、2億年前頃の地層から多数発見されていますが、多くが恐竜とともに滅び、世界中で1属1種のみが現在まで生き残っているため「生きた化石」植物といわれています。花言葉が「長寿」であるように、樹齢が数百年を越す名木が各地にあり、天然記念物として保護されているものが多くあります。

「イチョウ」の名は、葉の形が鴨の水かきに似ていることから中国で鴨脚(ヤーチャオ)樹と呼ばれたことに由来します。また、公(祖父の尊称)が植えてからようやく孫の代で実がなる樹という意味で、「公孫樹」とも呼ばれます。

イチョウは雌雄異株で、雌の木には銀杏がなります。独特の悪臭を出す多肉性の外種皮を除き、堅い殻を割ると種子(銀杏)があり、これを茶わん蒸し、天ぷらなどに食用とされたり薬に用いられています。

銀杏(白果)は、鎮咳去痰薬として用いる場合は、煮てその汁とともに食べるか焼いて食べます。強壯強精、頻尿、夜尿症などにも用いられ、中国では結婚式の前に、尿意を抑えるためや子孫繁栄、健康長寿を願って、花嫁に銀杏を食べさせる習慣があります。多食すると中毒を引き起こす可能性があり注意が必要です。

一方、葉(白果葉)は霜焼けや魚の目の治療に用いたり、紙魚(書物などにつく虫)予防に本のしおりにしたり、駆虫対策に肥料とされます。近年では、イチョウの葉に含まれるギンゴライドやフラボノイドに、血行促進、育毛、抗酸化作用などがあることが確認されており、循環器系の諸症状、認知症などへの応用が進められ、ヨーロッパでは医薬品として認可されています。

